

弓削校区社会福祉協議会行動計画【概要版】

住民のつながり広がる弓削校区～やっぱり、弓削がいいと思う地域づくり～

高齢者・障がい者

福祉課題

- 校区内に店が少なく、交通の利便性も悪いため買い物、通院が不便
- 高齢世帯、認知症の方の見守り体制が十分でない
- 「ふれあい・いきいきサロン」の参加者が固定化しており、参加人数が少ない

具体的な取り組み

- 移動販売車の回数を増やす等の運用を充実、乗合タクシーを実施する
- 認知症について理解を深める研修会や認知症徘徊模擬訓練の開催、近隣での見守り体制づくり

子ども子育て

福祉課題

- 子育て世代の共働き増加に伴い子どもの「孤食」が増えている

具体的な取り組み

- 子ども食堂を立ち上げ、地域での食材提供や人材を確保する
- 子育てネットワークの活動について周知する
- 子どもがいる共働き家庭への支援について各町内で検討する

暮らし

福祉課題

- リーダー的人材育成と活動する機会の情報提供が十分でない
- 校区社協役員のなり手が不足している
- 住民同士で生活上の困りごとを支援する体制が十分でない
- 災害時要援護者避難支援制度の周知が十分でない

具体的な取り組み

- 校区社協組織の活性化、体制強化を図り活動予算を確保する
- 1つの町内で実施している「ちょこボラ」を町内単位で組織する
- 福祉協力員制度を構築する
- 災害時要援護者避難支援制度の登録申請書を配布し、登録勧奨を図る

弓削校区社会福祉協議会行動計画

- ◎移動販売や配達ができる業者と連携を図る
- ◎買い物、通院の移送支援について検討会議を開催する
- ◎認知症徘徊模擬訓練など認知症への理解を深める研修会を計画する
- ◎「ふれあい・いきいきサロン」の充実に向け、運営者同志で情報共有を行う
- ◎子ども食堂の推進を図り、親子で参加できる環境づくりを行う
- ◎各種団体と連携し、世代間交流を図る
- ◎校区社協への理解を得るため、更なるPRに取り組むと共に若い世代の参加協力を促す
- ◎「ちょこボラ」体制を確立するため、福祉協力員の養成研修等を開催する
- ◎1つの町内で行っている災害時の支援体制を各町内へ広げる
- ◎防災講演会などを開催することで、関係機関・各種団体等の連携を強化する